

2024年6月19日

報道関係者各位

東急不動産ホールディングス株式会社
株式会社 Nature Innovation Group

アイカサ、東急不動産 HD 新規プロジェクト「傘のいない街 渋谷」を始動

～渋谷駅周辺にコンビニを超える 100 箇所以上の傘立てを置き、「使い捨て傘ゼロ」へ～

東急不動産ホールディングス株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：西川 弘典、以下、「東急不動産 HD」）と傘のシェアリングサービス「アイカサ」を展開する株式会社 Nature Innovation Group（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：丸川 照司、以下、「アイカサ社」）が連携し、渋谷区、一般財団法人渋谷区観光協会の後援のもと、6月19日から、渋谷駅半径 600m にコンビニの店舗数を越える 100 箇所以上の傘立て設置を行う「傘のいない街 渋谷」を開始することをお知らせいたします。街全体で「使い捨て傘ゼロ」を目指すことはもちろん、CO2 の削減など、環境負荷軽減に寄与しながら雨の日経済圏を活性化し、渋谷エリア全体の資産価値向上を図り、持続可能な街づくりの新たなロールモデルを目指します。



1. 「傘のいない街 渋谷」プロジェクト実施概要

a. 渋谷駅半径 600m に 100 か所以上のスポットを設置

渋谷エリアでは、渋谷駅の半径 600m にある東急不動産 HD の所有する物件を中心に順次、100 か所以上のアイカサのスポットを設置いたします。

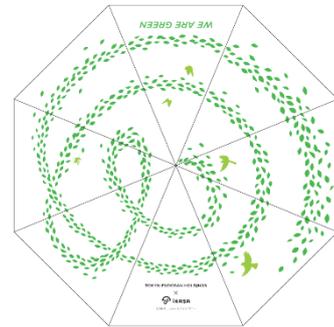
b.渋谷エリアで展開するオリジナルデザインの傘を制作

今回は、傘の取手も含め、クリアファイルをリサイクルして活用した 2 種類のオリジナルデザインの傘を作成予定です。

■雨傘



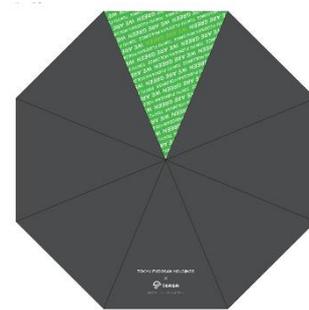
中央から、葉や生き物が飛び交い広がっていくイメージをシルエットイラストで表現。東急不動産の二階堂ふみさんが登場する企業 CM（[「環境先進で未来を拓く」CM 特設サイト | 東急不動産 \(tokyuland.co.jp\)](#)）を彷彿させるようなグリーンを活用したさわやかな傘に仕上げました。



■晴雨兼用傘



ビジネスシーンでも使いやすいように、ベーシックな色（ダークグレー）に、東急不動産 HD のスローガンである“WE ARE GREEN”と社名、グリーン色をアクセントにしております。老若男女、年齢問わず様々なシーンで活用できるシンプルなデザインに仕上げました。



2.渋谷の街で作っていききたい新しい価値

今回の取り組みにより、傘の消費量による CO2 の削減や廃棄物の削減、街の景観向上などの環境面に加え、オフィスビルや商業施設の物件価値の向上、雨の日の滞在時間の増加による消費促進などの経済面の 2 つの面から価値創出を行い、渋谷エリア全体の資産価値向上を目指します。

現在、企業には ESG（環境・社会・ガバナンス）への取り組みが求められていますが、人の移動が多い渋谷でサーキュラーデザインを取り入れた活動として、持続可能な街づくりの新たなロールモデルを目指します。

テーマ

インパクトの大きいまちづくりのESGの共創PJ

渋谷エリア全体のサステナビリティ・資産価値の向上

結果



変化

傘のシェアリングを用いた
街のサーキュラーデザイン

移動が多く、雨の日に困る

課題

ゴミが多い

a. 使い捨て傘の削減を通じた環境負荷低(環境面)

① 脱炭素社会の実現

傘シェアリングサービス「アイカサ」の導入により、使い捨て傘を減らし、廃棄物とCO₂の削減に寄与します。

< 想定CO₂削減量 >

- ・渋谷エリアでのCO₂削減量想定→年間76.1tのCO₂削減
- ・渋谷エリアでの資源量の削減想定→年間29.1tの資源量

(CO₂^{※1}: 試算想定=渋谷エリア 100 スポット×1100 回利用/年=110,000 回。110,000 回×692g=76,120kg。)

(廃棄物発生削減量^{※2}: 試算想定=渋谷エリア 100 スポット×1100 回利用/年=110,000 回。110,000 回×265g=29,150kg。)

※1 『アイカサ』を1回レンタルすることにより、CO₂約692gの削減に貢献します。

※2 コンビニで1回の雨で10本の傘が買われることを想定。年間降雨日数が110日であるために、10本×110日=1100回で想定。

(参照: 環境省 3R 原単位の算出方法より <https://www.env.go.jp/press/files/jp/19747.pdf>)

②使い捨て傘の減少による景観の向上

雨後の路上や風の強い日には、ビニール傘などの使い捨て傘がポイ捨てされやすく、渋谷区でも同様の状況が多くあると考えられます。そこで、アイカサのスポットを集中的に設置することで、急な雨の日などの使い捨て傘の消費を減らし、渋谷エリアの景観向上を実現します。アイカサで使用する傘の紛失率は 0.5%であり、傘の忘れ物があった場合も返却される仕組みとなっています。また、平均寿命が5年以上であるため、街でポイ捨てされることはほとんどありません。

b.渋谷エリア全体の雨の日のおもてなしを通じた資産価値向上(経済面)

①設置物件の価値向上

- ・ オフィスビル

物件のエントランス付近にアイカサを設置することにより入居者様に対して雨の日のおもてなしを届けることが可能になります。これまで突然の雨で困っていたお客様に対して傘を貸すことにより満足度を高め、このビルに入っていてよかった。という気持ちを醸成し、入居者様の満足度向上に努めてまいります。

- ・ 商業施設

来店されたお客様へのおもてなしを届けることはもちろんのこと、駅で借りたお客様が、街中で返却するタイミングで接点を作ることが可能になります。この新しい接点を通じて新たな消費活動の促進により売上アップにつながることを目指します。

②渋谷エリア全体の価値向上

雨の日は外出機会の低下や、滞在時間の短縮の影響により、消費活動が低下する傾向にあります。渋谷で、コンビニよりも多くの傘シェアリングスポットを設けることで、急に雨が降っても傘を持っていない人が、予定の変更や余儀なく帰宅等移動の制限がかからなくなり、渋谷の移動をスムーズにできるようになります。結果行きたいお店に行けたり過ごしたい1日が叶うことで年間11万人以上の街の滞在時間並びに消費金額の増加に繋がり渋谷エリア全体の資産価値上昇へ繋げてまいります。

■傘のシェアリングサービス『アイカサ』について

『アイカサ』は、“雨の日を快適にハッピーに”と使い捨て傘をゼロに“をミッションに2018年12月にサービスを開始した日本初の本格的な傘のシェアリングサービスです。突発的な雨にもビニール傘をその都度購入せず、駅や街中で丈夫でサステナブルな『アイカサ』を借り、雨が止めば最寄りの傘スポットに傘を返却することでエコに貢献しながら※2手ぶらで便利に移動ができるのが特徴です。現在は、アプリ登録者数55万人を超え、東京駅や新宿駅をはじめとした都内全域と関東、関西、愛知、岡山、福岡、佐賀など12都道府県で展開し、スポット数1500箇所以上に設置しています。



傘がないことによって移動ができないことや、濡れて不快になることを無くし、一人一人が過ごしたい今を過ごせるよう「雨の日のプラットフォーム」としてのインフラを構築、傘をシェアし人にも地球にも愛ある社会づくりを構築します。

※2 『アイカサ』を1回レンタルすることにより、CO2約692gの削減に貢献します。

参照：環境省3R原単位の算出方法より <https://www.env.go.jp/press/files/jp/19747.pdf>

『アイカサ』アプリの登録はこちらから：<https://www.i-kasa.com/>